

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770401495		
法人名	有限会社そら		
事業所名	大地の家		
所在地	福島県いわき市四倉町字西三丁目12-15		
自己評価作成日	平成21年10月25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉ネットワーク		
所在地	いわき市錦町竹の花20番地		
訪問調査日	H 21・10	・29	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「穏やかな日常生活の実践」を目標に日々を過ごしています。おだやかな日常生活とは・・・ホット出来る自宅での生活。自己選択や自己決定が当たり前だった頃の生活。役割や達成感がある生活。和気藹々と楽しく過ごすことをモットーに皆で協力し合いながら生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険スタート初期から立ち上げ、毎年目ざましく急成長していく中、グループホームとしての信念と条件を覆すことなく支援につとめている。介護される側、支援する側が同じ目的をもって日々の生活交流をはかっている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-) です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らすための理念として、事業所理念を設けている。理念を掲示し説明が必要な時には、理念の意味を説明するようにし理念の共有、その実践に取り組んでいる。	事務所が目指すものを、管理者、職員は理念を理解し共有している姿が見られる。常に職員全体での話し合いがされている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	散歩時のあいさつ、地域の行事、小学校の運動会やバザーなどに参加し地域の人々と交流を持っている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の方達から畑の作物の差し入れや話し相手をして下さる方も有り、地域の方達との交流支援を行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老後を楽しむそのの会や高校生ボランティアの受け入れなど人材や認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	課題について話し合い、それをサービス向上に活かすよう努めている。前回、指摘された内容で改善できていないこともあります。	会議を通じて地域支援や改善課題の情報交換をしている。	家族会の延長会議に留まらず、各専門メンバーから率直な意見を受け、課題から外れない支援向上に努めていく。今後も引きつづき地域包括センターとの密な情報交換を図っていく。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密にすることが出来なかった。	地域包括支援センターとの連絡を密に取りながら少しずつですが情報交換をしながら支援を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解することに努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関してのケアを一人一人が、理解している。 日中は、ほとんど施錠されておらず安全面にも配慮されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定例会で理解の浸透や虐待が見過ごされることが無いよう注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会で理解の浸透を図っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明している。特に利用料金について詳しく説明し同意を得るようにしている。事業所のケアに対しての考え方や取り組みも説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を月に一度派遣してもらい、利用者の相談に乗って頂いている。利用者からの話を意見として運営の参考にしている。	何でも言って貰える雰囲気づくりにつとめており、出された意見、要望は職員で話し合いながら決めており、それが反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	定例会を月に一回行って意見を聞くようにしている。それ以外にも随時、耳を傾け活かしていくことを心掛けている。	職員一人ひとりの意見、要望、提案を話しやすい雰囲気に持っていき、それを管理者が代表者へつないでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある方には機会を設け、ない方には定例会や働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会での交流・研修の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、通常以上にコミュニケーションを軸に、安心の確保、より良い関係作りに努めている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、契約時、初期段階などでは、特に困っていること不安なこと要望等に耳を傾けながら良い関係作りに努めている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様が見学に来て頂ける場合は、ホームの雰囲気を見て頂い時間を取って説明させて頂いています。本人様が見学に来られない場合は会いに行きます。			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なこと好んでいることなど役割を持って頂き、共に支え合える関係作りに努めている。			
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一泊旅行や餅つき大会、会議参加などの参加協力をお願いすることで共に支えていく関係を築いている。			
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との円滑な交流を復活させたり、知人との面会の機会を支援したり、継続的な交流が出来るように働きかけている。年賀状や季節の便り、電話を使い関係が途切れないよう努めている。	本人を支えてくれて人、支えてきた人達との関係が途切れないように、継続できるよう支援している。一人ひとりの生活環境を尊重している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごせるよう考えながら、孤立せず関わり合いが持てる支え合うような支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	見舞いへ行ったり、近くに来たからと寄って頂いたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	言葉や表現などから希望や意向を把握し考えるよう努めている。	日々のかかわりを重要し、声掛け、把握に努めている。利用者様と職員が密にかかわる場を多く持ち言葉や表情から真意を測ったり、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の自宅訪問や見学時、特に利用初期段階など本人様やご家族から聞き取りをしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが役割を持てるよう注目し、得意なこと好きなことの把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時支払い時などご家族から要望などを聞き、スタッフ全員でモニタリングをしている。	本人、家族との関わりの中で、職員全員で意見交換やモニタリングをして、それを反映させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分量、排泄など身体的状況、エピソードや気づき、本人様の言葉を記録し誰でも確認が出来るようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中、様々な状況に対応出来るだけ柔軟に対応している。月間予定や1日の流れはあるものの、本人様やご家族の状況に合わせて変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用したり、買い物や地域の清掃などを行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様又はご家族が希望した病院へ定期的を受診している。適切な医療を受けられるよう支援している。	入所前のかかりつけ医を重視し、適切な治療が受けられるよう支援している。近位協力医や歯科医により、適宜診療及び往診を依頼している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との連携で、協力医療機関の医師や看護師に情報や気づきを伝え相談し、適切な受診が行えるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、本人様の不安解消や医師又は医療スタッフとの連携を持つために、顔なじみのスタッフが見舞うようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用初期段階に説明をし、ご家族と話し合いを持っている。	利用開始時期より段階ごとに合わせ家族・医療チーム・事業所系列チームと連携を図り、万全に努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会や運営推進会議で応急手当や初期対応の訓練をし、実践力を身に付けてるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月行っている。近隣の神社にお願いし、神社駐車場を避難場所としている。	年2回、消防署員監修、指導の下実施。月1回、近隣神社に協力を得て、避難場所の確保に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会や日常の中で随時、確認と改善をしている。	個々の生活歴を把握し、定期的会議や日常生活の中で職員間で認識共有している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スムーズな希望の表出が出来るよう、日々良好な関係を築く努力をしている。迷いが生じた場合は選択肢を提案し選んで頂くようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など一人ひとりの状態や気持ちに配慮した支援、出来るだけ希望に添った支援に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の化粧や洋服選びなど、本人の好みや気持ちに添った支援に努めて。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	調理や配膳、片付けなど本人様と共に行い、皆で食事の時間を楽しく過ごせるように努めている。	ホーム裏庭の菜園場を利用し、季節野菜を共に収穫・調理することで食事時間を有意義に活用している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご家族から以前の状態を聞き、現状は医師の指示や医師との相談により支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事やおやつの後には、スタッフが付き添い本人様に合わせた対応を行っている。協力歯科医院の協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣の把握により、トイレへの促しや誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握し適宜、声かけ誘導することでオムツに頼らない支援を心掛け機能低下を防いでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や適度な運動を一緒にすることにより、自然な排泄を目指し取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように支援している。	利用者の意向に沿ったゆとりある支援に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜型にならないよう生活リズムを整える努力をしている。一人ひとりの体調や体力、希望などを考慮した休息が取れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが薬の目的や副作用、用法や用量を確認し理解することで、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びのある日々のために、一人ひとりが楽しみや気分転換など出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は希望に添って行っている。家族の協力を得て自宅の様子を見に帰ったり、季節を感じられる場所へ出掛けている。	日常的な外出支援は勿論のこと、要望に沿って家族の協力を得て自宅や戸外へ出向いて行ける支援も取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さを理解し、一人ひとりの希望や力に応じて支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や季節の便り、お礼の電話などの、やり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家風な空間を意識し、囲炉裏や掘りごたつ、光の調節などを用い、居心地の良い空間になるよう努めている。	随所に配置された和の装飾品が居心地良い落ち着いた空間を保っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックゾーンの居間やセミパブリックゾーンの広縁風廊下、食堂など思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	本人様が使用してきたモノを利用して、生活が出来るようお願いしている。花やご家族の写真なども飾ったり出来るようにしている。	個々の生活歴、価値観を重視した愛用品や趣向品の数々が自由空間を作り出していた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自由な生活を送って頂き、それについて安全が保たれるよう努めている。		

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム大地の家

記入担当者名 管理者 上面雅一

評価結果に対する事業所の意見

ありません。

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。